

街にひろがるチュニック&ワンピース



《チュニック&ワンピースのイメージ》

風にそよぐアフロディテ

2007年春夏のレディスヤングトレンドは、Aラインのチュニック丈トップやワンピース、シャツドレス等のはおる感覚の軽くて薄いトップスと、レギンスやスキニーパンツ等のコーディネートが市場を席巻しました。レディースファッションはこの10年でボディの「解放・露出」が進み「下着の OUTER 化」が進展してきました。

ルーツはギリシャ

‘97～‘98年に、本来は下着である「キャミソール」が流行し、薄手アイテムをレイヤードする着こなしの基本形が作られました。2003年頃には、トップはドレープ等のテクニックで、「ひだを垂らす」ことが重視され、古代ギリシャの衣服（キトン）のように、ルーズな中に女性らしさを強調するファッションが広がりました。肩、袖の上部を縫わずに明きをつくり、肌を「チラ見せ」させたり、胸元や背中中の「ブラ見せ」が広がりました。

巷では、「エロかわいい」等の言葉がさかんに聞かれますが、この「エロ」は「セクシーに。ちょっとHっぽく。」という意味で、ファッションにおいては明るく元気に肯定的に解釈されています。

2008年春夏の企画ポイント

チュニック&ワンピースの流行が成熟期に入る2008年春夏シーズンの企画ポイントとして、より繊細なニュアンスを感じさせるもの 柄物等においては派手でアクティブな指向等が注目されます。

素材：シフォンやレース等の透ける素材、光沢感のある素材、軽くソフトな合繊やニット素材、プリーツや楊柳等のしわ素材、ナチュラル感のあるコットン、ゴールド調素材、同色異素材の組み合わせ等。

ディテール：フリル、リボン、ドロースtring、ベルトやテープのアクセント使い、多彩なドレープ、アシンメトリー、スリット状の明き、控えめなバルーン、以上のテクニックの袖への展開。

柄：ポップな幾何学柄、アシッドカラーを配したグラフィック柄、リバティやプロヴァンス風の小花柄、レパード等のアニマル柄、マリン感覚のボーダーとその変化使い、水玉柄のバリエーション等。

ボトムスの提案：マイクロパンツ、アウターショーツ（見せてもいいショーツ）、ハイニーソックス等。

事業化支援部 墨田支所

大橋健一 TEL 03-3624-3996

E-mail : oohashi.kenichi@iri-tokyo.jp